

令和4年度 秋季一般入学者選抜試験（3年コース）

小論文試験問題

注意事項

1. 開始の合図があるまで、開かないこと。
2. この問題冊子は8枚綴り、問題は片面に印刷されている。
3. この問題冊子は持ち帰ること。
4. 解答用紙は必ず提出すること。
5. この試験の問題は、ただ1つ特定の正解が存在することを前提とするものではない。また、解答者の思想・信条を問うものではない。

解答記入上の注意

1. 解答は、黒、青、ブルーブラックのボールペン（プラスチック製消しゴム等で消せないもの）又は万年筆で記入しなさい。
2. 解答は横書きにして、原則としてマス目に1字記入しなさい。
3. 加筆・訂正・削除は、その記入方法も含めて自由とする。ただし、修正液・消しゴムなどを使用してはならない。
4. 加筆・訂正・削除をした場合は、それらを含めて、完成後の答案が字数の制限内に収まるようにしなさい。
5. 読みやすい答案となるよう心掛けなさい。

問 題

次の文章は、西垣通『集合知とは何か ネット時代の「知」のゆくえ』（中公新書、2013年）から抜粋した文章である。これを読んで、以下の問いに解答しなさい。なお、出題者が付した注である※1及び※2に記載した内容は、本書の他の部分より抜粋した文章である。（〔問1〕〔問2〕〔問3〕〔問4〕の配点割合は、2：2：2：4）

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

〔問1〕

筆者の考えによれば、下線部①「エキスパート・システム」とはどのような試みであり、どのような限界があるか、文中の言葉を使って200字以上400字以内で解答しなさい。

〔問2〕

筆者の考えによれば、下線部②「第五世代コンピュータ」とは何か、文中の言葉を使って200字以上400字以内で解答しなさい。

〔問3〕

下線部④に関連して、「エキスパート・システム」や「第五世代コンピュータ」に欠落していた観点とはどのようなものであったと考えられるか、文章の趣旨を踏まえて200字以上400字以内で解答しなさい。

〔問4〕

下線部③「AIからIAへの転換」という考え方にに基づき、医師や弁護士などの専門職において、インターネットやパソコンなどのコンピュータをどのように用いることができる（用いるべきである）と考えるか、文章の趣旨を踏まえて600字以上800字以内で解答

しなさい。

【解答作成上の留意点】

- I 本問は、解答者の思想や信条を問おうとするものではない。また、法知識の有無を問おうとするものでもない。
- II 【問1】【問2】【問3】【問4】は、それぞれ独立のものとみなして採点する。必要な場合には、他の解答欄に記述したことでも繰り返して記述しなさい。

【出題趣旨】

〔問1〕は長文読解力及び表現力を問う問題である。本書の記載に基づいて「エキスパート・システム」の概要を明らかにした上で、例えば医師が誤診を避けるために患者が訴えた自覚症状だけでなく、直観や検査を通じて他の病気の可能性も考慮して慎重に病名を判断する方法には及ばないなどの限界を適切に説明することが期待される。

〔問2〕は長文読解力及び表現力を問う問題である。本書の記載に基づいて「第五世代コンピュータ」の特徴を「並列推論マシン」等の文中の言葉を使って適切に説明することが期待される。

〔問3〕は長文読解力及び自己の考えを適切に表現する能力を問う問題である。「欠落していた観点」として、例えば、人間は理性だけでなく感情を有し誤りもおかすこと、人間は微生物から進化してきた生物であり、刻々と変化する環境のもとで常識と直観をはたらかせて臨機応変に行動すること、人間の思考は論理操作のみではなく、文化や思想、情念のようなものにも影響されること、などが考えられる。

〔問4〕は、「A I から I A への転換」という考え方、「エキスパート・システム」や「第五世代コンピュータ」の失敗等をふまえて、専門職におけるコンピュータ活用の在り方について、その利点や限界、活用の具体例を指摘するなどして、自己の考えを適切に表現する能力を評価するものである。